

7 October 2019

Japanese version of the speech

ご来場の皆様

本日は、この TCFD サミットで皆様とお話できてとても光栄です。当イベントを開催するのに今ほど適した時期はないでしょう。

世界は、私たちの存在を脅かす急激な気候変動に直面しています。しかし、リスクは最大限に高まってはいますが、機会を捉えることさえできれば、それを防ぐための解決策も存在します。

本日、私は「機会」という言葉をかなり意図的に使っています。なぜなら、私はビジネスや投資の観点から、未来の低炭素社会への移行の必要性は、持続可能な地球を確保するための取り組みに積極的に参加する人々に、さまざまな経済的利益をもたらすと確信しているからです。

イノベーションや競争力がもたらす機会は魅力的です。ブルームバーグによると、2040 年までの発電への予想投資額 10 兆 2000 億ドルのうち、86%はクリーンエネルギーが対象です。

アジア太平洋地域、そして世界は、カーボンネットゼロ経済への移行において日本のリーダーシップを必要としています。この素晴らしい国は、歴史を通じて革新の主な模範となっており、私たちはその先進性の対象が、化石燃料から、パリ協定の目標の実現を可能にする産業へと移行するのを見守る必要があります。

私は、日本が最近カーボンニュートラル連合に参加したことを嬉しく思います。同様にアイルランドも参加したばかりの今、どの国が最初にカーボンニュートラルを達成できるか競争するのもよいかもしれません。

多くの政治指導者たちが必要な行動を取れずにいる中、皆様のような企業や投資コミュニティのメンバーによるリーダーシップは特に重要です。

先月、私はニューヨークで開催された国連総会と気候行動サミットに出席し、世界中の何百万人もの人々とともに、気候変動に対して勇気あるリーダーシップを発揮するよう各国政府に求めました。

残念なことに、そうしたリーダーシップはほとんど発揮されていませんでした。気温上昇を 1.5 度以内に抑えるというパリ協定の目標達成に欠かせない主要排出国である G20 諸国は、化石燃料の使用を止めるために必要な行動を協力して確約することができないか、またはそうしようとしませんでした。

科学的見解によると、この気候非常事態の最悪の影響を回避するため、世界は 2050 年までにカーボンニュートラルを達成する必要があります。世界中ではすでにいくつかの影響が現れ始めています。70 億～230 億ドルの損害が推定される、2018 年 6～7 月に西日本や中日本で発生した洪水についてはすでに皆様もご存知かと思います。このような洪水は、頻度や激しさが増すと予想される各種現象の一例にすぎません。

気候危機は私たちの命をかけた戦いであり、現在私たちは劣勢です。

だからこそ、この TCFD サミットは特に重要なのです。気候変動について世界の主要経済国のリーダーシップが切実に求められる今、私は安倍総理によるこの取り組みを歓迎します。また、今後数日間ここで行われる重要な議論が、すみやかに協調行動に結びつくことを願っています。

日本はこの TCFD に多くの署名者が集まったことを誇りに思うべきです。気候関連資産の透明性のある開示は、気候リスクに関する意思決定をビジネスに組み込むための最初の重要なステップです。これが重要なのは、緊急に無炭素社会へと移行するには、ビジネス

や金融が変換の役割を果たさなければその変化が起きないためです。

また、気候変動にはジェンダーの影響も大きいため、情報開示にジェンダーの平等を盛り込むことも強くお勧めします。

日本企業はすでにエネルギー貯蔵や、電気自動車、スマート都市計画のイノベーションをリードしています。これは歓迎すべきことですが、今は同様の革新的な野心や競争力を、国内外の再生可能エネルギーの供給に向ける必要があります。

化石燃料経済に固執し続けることの経済的リスクはすでに表面化しており、日本の主要な企業や投資家も再生可能エネルギー以外への投資を控えるという世界的な傾向に従いつつあります。

世界は、早急に化石燃料の使用停止にコミットする必要や、そうしない場合のリスクを日本の優れた大企業が認識することを求めています。産業界の巨人たちが、気候や経済のパラダイムシフトという現実素早く適応できず、時代遅れになり消滅してしまったら、我々の地球の未来にとっても損失となるでしょう。

気候科学は明確で、経済学は不可避であり、今や行動を求める大衆の要求には止められない勢いがあると私は信じています。日本は今こそ京都議定書の精神を復活させ、地球全体の持続可能性に関して再び世界をリードすべきです。

安倍首相は 2018 年に「緑の大地や青い海に投資することは成長を生み出す」と述べ、手遅れになる前にさらなる「破壊的イノベーション」を求めました。

The Elders はこの考えを完全に支持しており、私は今回のサミットを通じて、グリーン成長への投資機会に関する理解が日本の政治・経済界でさらに深まることを期待しています。

ありがとうございました。これから数日間、実りある議論を期待しています。

